

(別紙2)

「第6回きょうと明日へのチャレンジコンテスト審査項目」

<p>情報収集：事実を調べられているか ○どのような問題が起きているかを適切な手段・方法で調べられているか</p>
<p>補足：提示されている、もしくは、各校で決めた「問い」について、その「問い」の背景を調べ、どのような問題があり、なぜその問題が起きているのかを理解した上で提案しているかを審査します。 また、どのような問題があるかを知ることにより、ターゲットは絞られます。</p>
<p>分析：企業・大学等からの「問い」に対する提案になっているか ○企業・大学等からの「問い」にこたえる提案内容となっているか</p>
<p>補足：「問い」に対する提案になっているかを審査します。 提示されているもしくは、各校で決めた「問い」について、常にその「問い」に対しての提案内容になっているかを確認しながら、進めてください。</p>
<p>仮説構築：「問い」に対して、誰に、どのような手立てを打つことが必要かをまとめられているか。 ○課題解決としてアイデアをまとめられているか ※これまでの教科等の学びを総動員出来ているか（教科横断的・多面的・多角的）</p>
<p>補足：多面的・多角的な視点でアイデアが構築されているかを審査します。また、ターゲットを具体的に絞ることによって、アイデアも、より具体的になります。 ※は一次審査及びコンテストでは審査しません。校内審査の際に活用してください。</p>
<p>検証：検証をおこなっているか ○提案内容に実現可能性があるか</p>
<p>補足：実際に実現可能かを、企業・大学等の専門的な視点から審査します。校内で交流をすることで、自分たちだけでは気付かなかった点に気付いたり、他の生徒の提案に指摘したりすることによって、実現可能性があるかどうかを追究してください。</p>
<p>アウトプット：伝わりやすい内容となっているか ○聞き手を意識して、伝えたいことが伝わる内容となっているか</p>
<p>補足：キャッチコピーや伝える順番など、資料内容や話し方などの工夫について審査します。</p>
<p>交流：チームで取り組んでいるか ○全員の意見が反映され、役割を分担しチーム全員で取り組んでいるか</p>
<p>補足：一次審査及びコンテストでは審査しません。校内審査の際に活用してください。</p>